

# 日商簿記検定 2 級講座

## 工業簿記

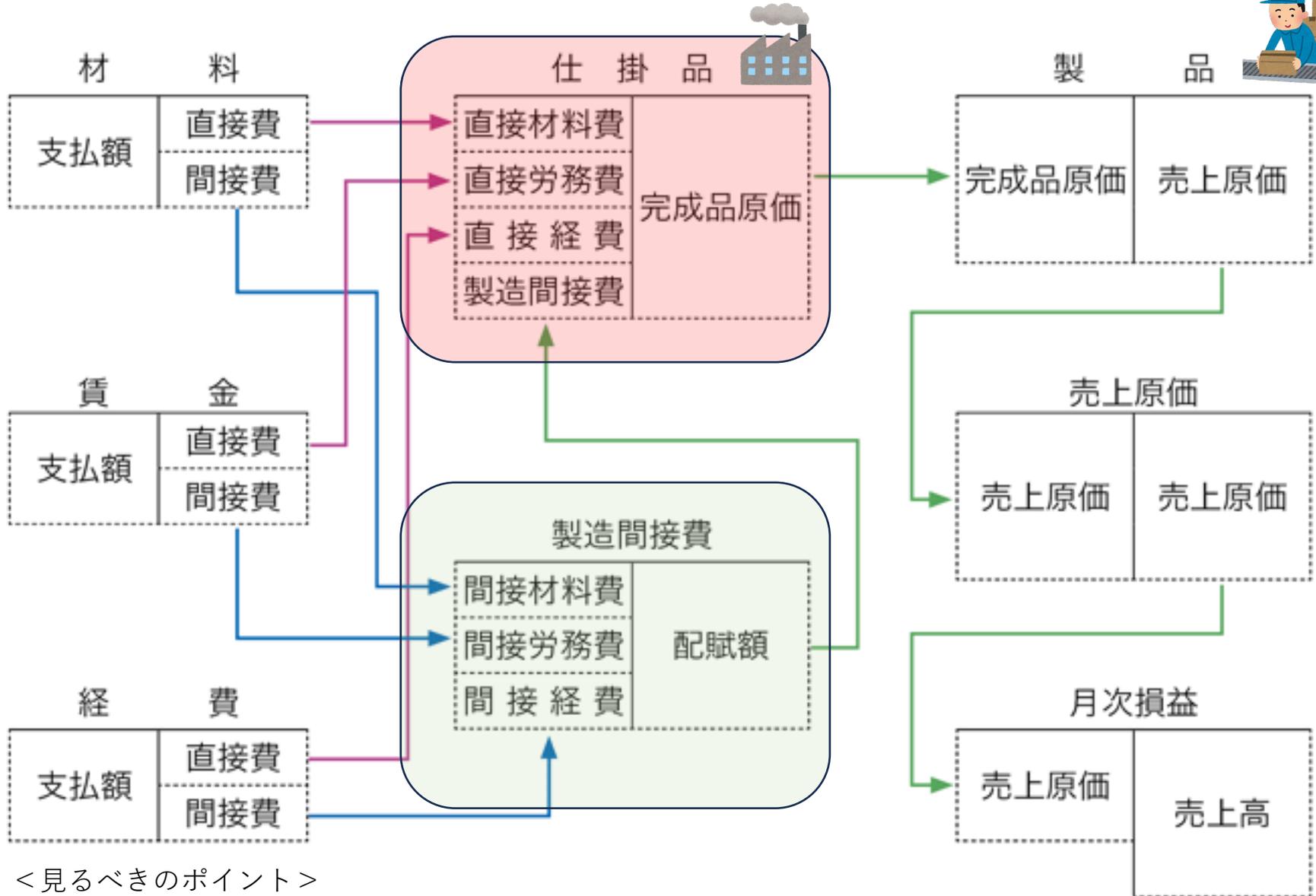
【第6回】

### 個別原価計算 I

# 第6回講義の内容

テーマ08	個別原価計算 I	62ページ
-------	----------	-------

「勘定連絡図」(P63)を確認してください。



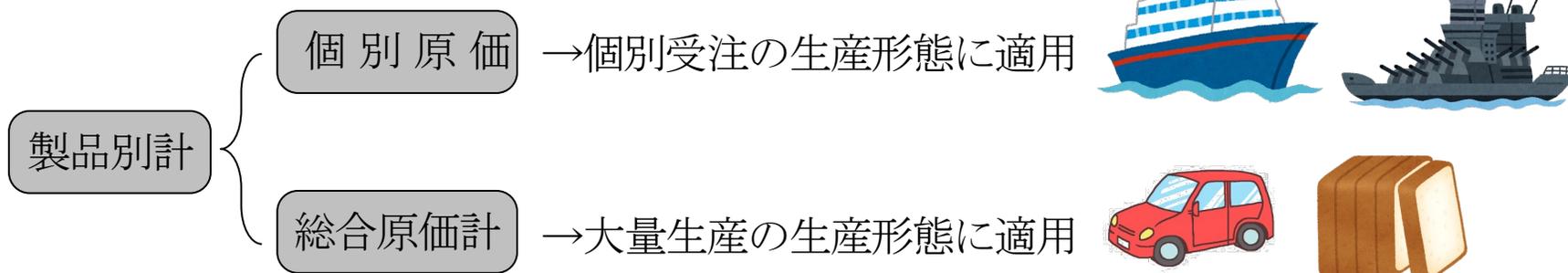
<見るべきのポイント>

- ①直接費と間接費で行き先が異なる
- ②間接費は製造間接費勘定を經由して配賦される。

# 1. 個別原価計算とは (P 62)

## 1. 原価計算の方法と種類

経営における製品の生産形態が異なれば、その生産形態に応じた製品原価の計算が行われます。原価計算の製品別計算の種類には、その生産形態に応じて、大きく①個別原価計算と②総合原価計算の2つに分けられます。



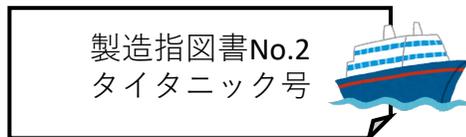
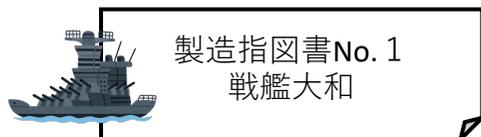
特徴 \ 形態	個別原価計算	総合原価計算
生産形態	個別受注生産	市場見込生産
計算対象	特定生産品 —job (個別製品)—	一定期間の生産品 —Process 全体—
計算の特徴	直接費の直課と、間接費の配賦	完成品と仕掛品への配分計算
適用業種	造船業、建設業、機械製造業	食品産業、加工組立型産業等

## 2. 製造指図書発行と3.原価計算票（P 62）

<設例8-1～8-2>

当社は造船会社である。各資料に基づいて①原価計算表を作成するとともに、②仕訳と勘定記入を行いなさい。

(1) 2隻の船の建造を受注し、下記の製造指図書を発行した。



(2) 各費目における指図書別の消費額の計算結果は次のとおりである。

	No. 1	No. 2	2隻に共通	合計額（単位：円）
材料の当月消費額	2,000	1,500	1,500	5,000
賃金の当月消費額	2,000	2,000	1,500	5,500
経費の当月消費額			3,600	3,600

(3) 製造間接費に集計された金額は、工場全体で「?円」であった。これを各製品の機械運転時間配賦基準として各製造指図書に「実際」配賦する。 ※P65参照（何を基準にするか）

(4) 機械運転時間は、製造指図書No. 1 に対して6時間、No. 2 に対して5時間であった。

特定製造指図書の一例

製造指図書

平成〇年10月9日

No.1

原価計算課

山口 一郎 様

発行者 山田 次郎

下記の製造を命ずる

注文番号 K-5004

完了要求日 平成〇年11月8日

受注先 B工業株式会社

着手日 平成〇年10月9日

納入場所 佐世保港

完了日 平成〇年10月25日

品名・規格	数量	備考
豪華客船	1隻	(省略)



No. 1

戦艦大和

特定製造指図書の一例

製造指図書

平成〇年10月9日

No.2

原価計算課

山口 一郎 様

発行者 山田 次郎

下記の製造を命ずる

注文番号 K-5004

完了要求日 平成〇年11月8日

受注先 B工業株式会社

着手日 平成〇年10月9日

納入場所 横浜港

完了日 平成〇年10月25日

品名・規格	数量	備考
タイタニック号	1隻	(省略)



No. 2

タイタニック号

2

3

4

## 勘定連絡図と直課及び配賦（P 63～66）

### 1. 原価計算表を使って原価の計算をする

原価計算表 (単位: 万円)			
	No. 1 (大和)	No. 2 (タイタニック)	合計
①直接材料費			
②直接労務費			
③製造間接費			
合計			

(計算の方法)

直 課

直 課

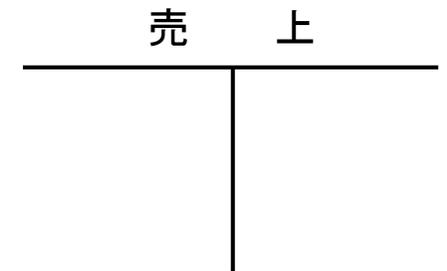
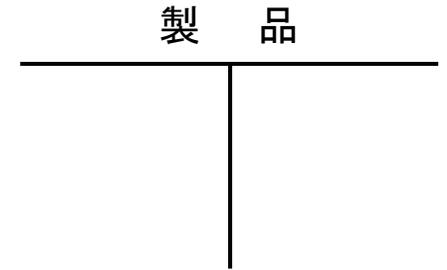
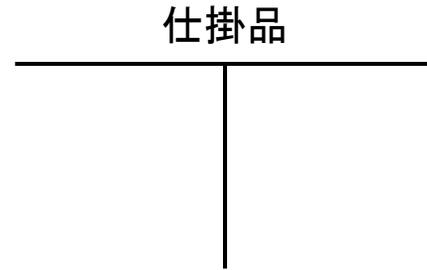
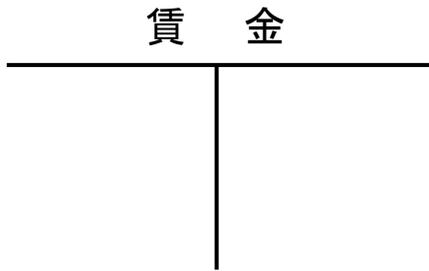
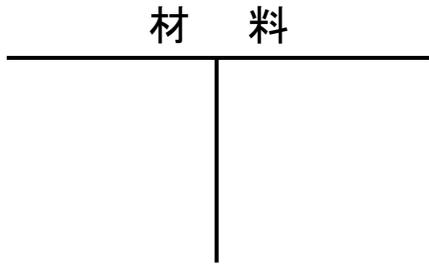
配 賦

### 2. 簿記を使って記録する (1) 仕訳帳への記帳

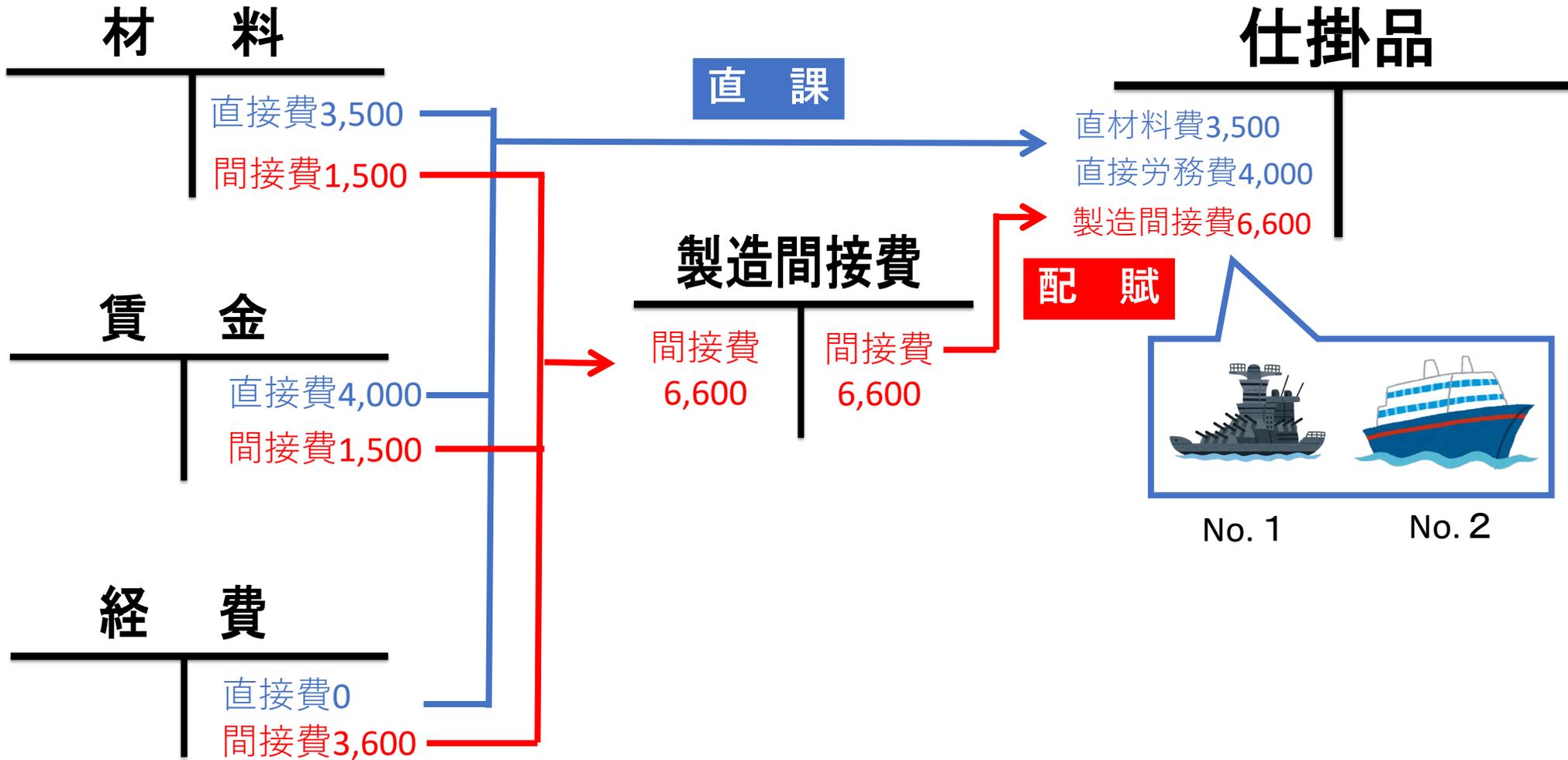
	借方	金額	貸方	金額
直接費の処理				
間接費の処理				

(2) 総勘定元帳への転記

< 勘定連絡図 >



## (2) 総勘定元帳への転記



## 5 原価計算表と仕掛品勘定 (P 70・71)

<設例8-3> 当社は造船会社である。

各資料に基づいて①原価計算表を作成するとともに、②仕訳と勘定記入を行いなさい。

なお、**No. 2 は前月に製造着したもので、前月までに集計された原価は6,500円であった。**

(1) 3隻の船の建造を受注 (No. 2 は前月に受注) し、下記の製造指図書を発行した。



製造指図書No.2  
タイタニック号



製造指図書No.3  
戦艦大和



製造指図書No.4  
タンカー

(2) 各費目における指図書別の消費額の計算結果は次のとおりである。

	No. 2	No. 3	No. 4	合計額 (単位: 円)
材料の当月消費額	0	1,500	1,000	2,500
賃金の当月消費額	500	1,500	1,500	3,500
製造間接費の配賦額	1,100	3,300	2,200	6,600

(3) 製造間接費は、機械運転時間を配賦基準に「実際」配賦している (上記の計算結果)。

(4) 当月に、**製造指図書No. 2 と No. 3 は完成した。しかし、No. 4 は仕掛品中 (未完成) である。**

(1) 原価計算表（原価の計算）→個別原価計算

(単位：千円)

	No. 2	No. 3	No. 4	合 計
月初仕掛品原価		—	—	
直接材料費	—			
直接労務費				
製造間接費				
合 計				
備 考				

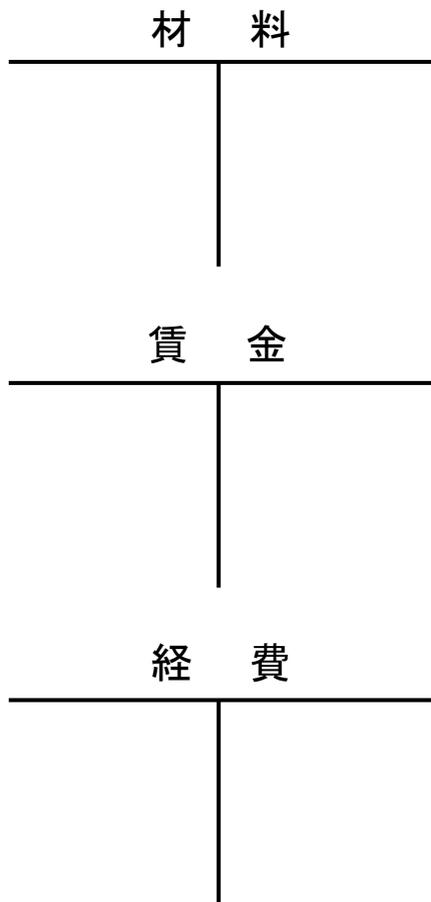
(2) 勘定記入（仕訳帳）

①				
②				
③				
④				

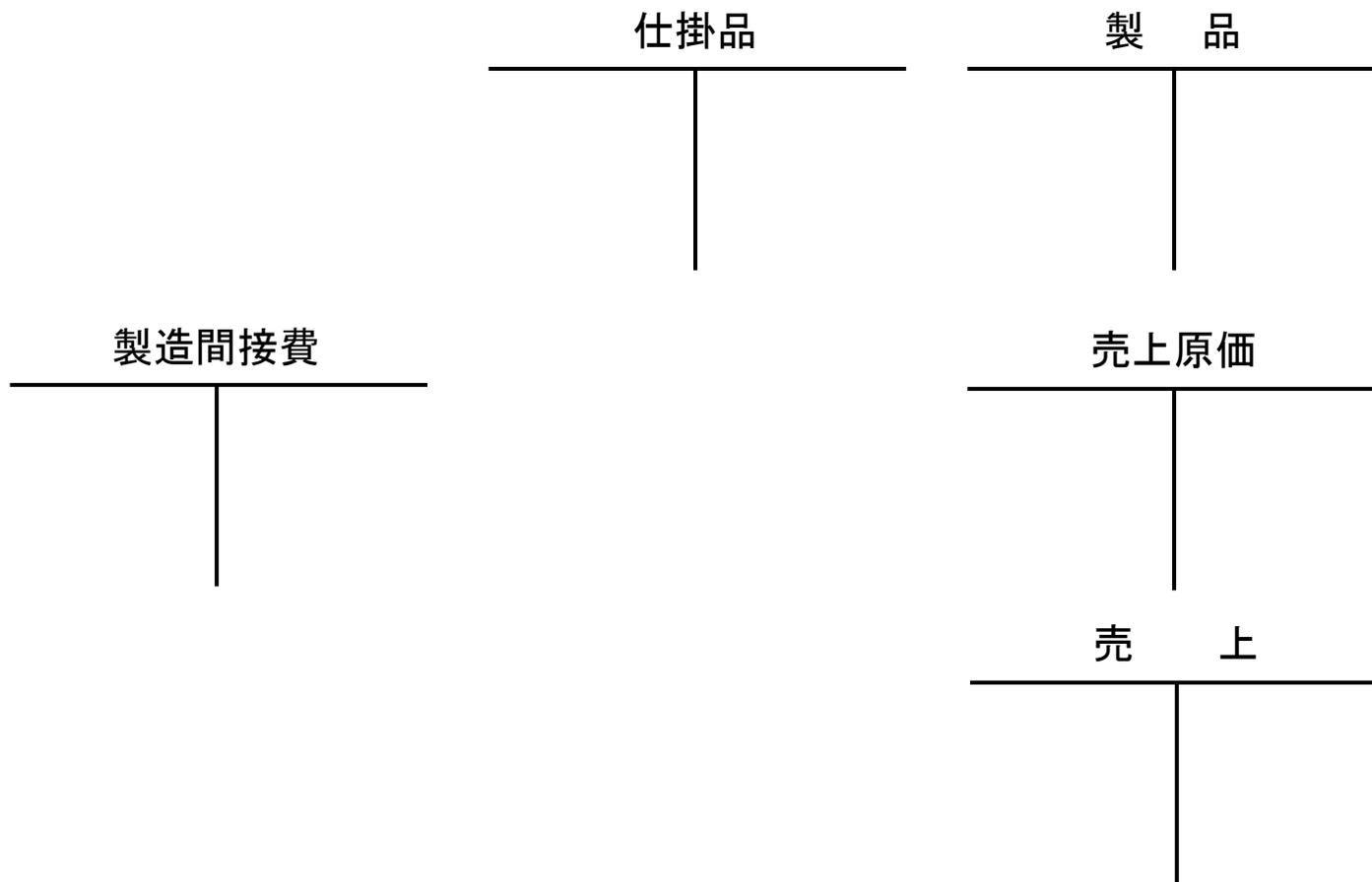
(3) 勘定記入（総勘定元帳） ～仕掛品勘定のみ抜粋

仕 掛 品	
前 月 繰 越	6,500
[ ( ) ]	[ ( ) ]
[ ( ) ]	[ 次 月 繰 越 ] ( )
[ ( ) ]	
( )	( )

# 勘定連絡図の全体



# < 勘定連絡図 >



## (1) 原価計算表（原価の計算）→個別原価計算

(単位：千円)

	No. 2	No. 3	No. 4	合 計
月初仕掛品原価	6,500	—	—	6,500
直接材料費	—	1,500	1,000	2,500
直接労務費	500	1,500	1,500	3,500
製造間接費	1,100	3,300	2,200	6,600
合 計	8,100	6,300	4,700	19,100
備 考	完成	完成	仕掛中	

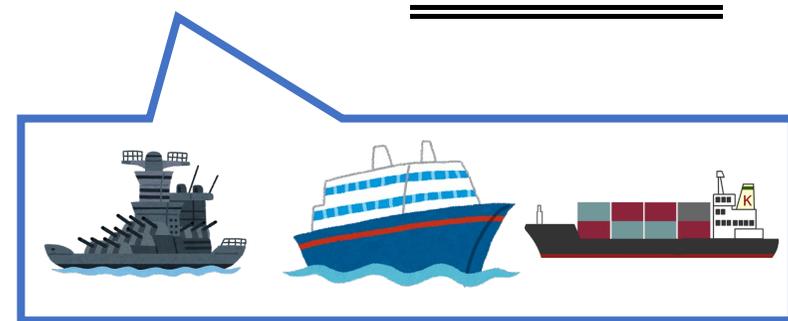
## (2) 勘定記入（仕訳帳）

①	仕 掛 品	2,500	材 料	2,500
②	仕 掛 品	3,500	賃 金	3,500
③	仕 掛 品	6,600	製 造 間 接 費	6,600
④	製 品	14,400	仕 掛 品	14,400

(3) 勘定記入（総勘定元帳） ～仕掛品勘定のみ抜粋

仕 掛 品

前 月 繰 越	6,500	〔 製 品 〕	( 14,400 )
〔 材 料 〕	( 2,500 )	〔 次 月 繰 越 〕	( 4,700 )
〔 賃 金 〕	( 3,500 )		
〔 製 造 間 接 費 〕	( 6,600 )		
	( 19,100 )		( 19,100 )



No. 2

No. 3

No. 4

(3) 勘定記入（総勘定元帳）

両者の関係を理解してください（P70）

仕 掛 品	
前 月 繰 越	6,500
[ 材 料 ] ( 2,500 )	[ 製 品 ] ( 14,400 )
[ 賃 金 ] ( 3,500 )	[ 次 月 繰 越 ] ( 4,700 )
[ 製 造 間 接 費 ] ( 6,600 )	
( 19,100 )	( 19,100 )

(1) 原価計算表（原価の計算）→個別原価計算

未完成

（単位：千円）

	No. 2	No. 3	No. 4	合 計
月初仕掛品原価	6,500	—	—	6,500
直 接 材 料 費	—	1,500	1,000	2,500
直 接 労 務 費	500	1,500	1,500	3,500
製 造 間 接 費	1,100	3,300	2,200	6,600
合 計	8,100	6,300	4,700	19,100
備 考	完成	完成	仕掛中	

## 6 個別原価計算における仕損（P 73・74）



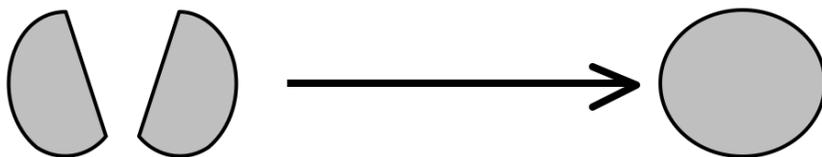
補修可能な仕損（失敗品）  
を前提にします

### 仕損の負担計算が必要な理由

<仕損費の負担計算のイメージ>

【個別原価計算の場合】

①陶芸工房にて受注したお皿が、製造途中に割れてしまい、新しくお皿を作り直した。



製造途中に割れたお皿の原価

材料費	100
労務費	200
経費	100
原価	400

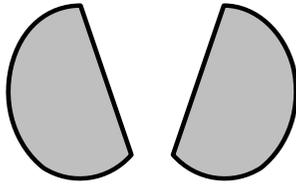
新しく作り直したお皿の原価

材料費	100
労務費	300
経費	200
原価	600

②新しく作り直したお皿を 700 円で顧客に販売した。

売上高	700
売上原価	600
利益	100

この計算は果たして合っているのだろうか？

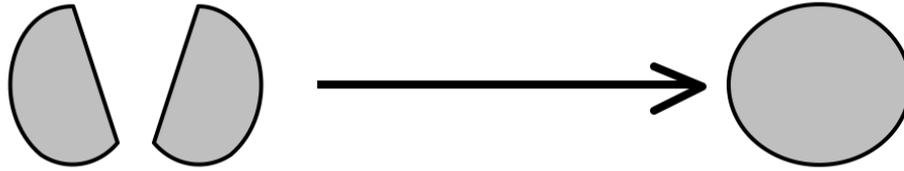


製造途中に割れたお皿の原価

材料費	100
労務費	200
経費	100
<hr/>	
原価	400
<hr/> <hr/>	

この失敗品の  
原価は回収できない

③製造途中に割れたお皿の原価を新しいお皿の原価に上乘せする。



製造途中に割れたお皿の原価

新しく作り直したお皿の原価

材料費	100
労務費	200
経費	100
原価	400

材料費	100
労務費	300
経費	200
失敗品の原価	400
原価	1,000

**失敗品の  
原価も含め  
て1000円**

④新しく作り直したお皿を1,200円で顧客に販売した。

売上高	1,200
売上原価	1,000
利益	200

**仕損費の負担計算は個別原価計算以外に  
総合原価計算でも出てくるので、この  
負担の考え方をしっかりと  
理解しておこう！**

<設例8-4> 仕損が発生する場合の個別原価計算の方法 (P73)

【原価の計算】

原価計算表

(単位：千円)



No. 1

No. 1-1 (補修)

直接材料費

2,000

100

直接労務費

2,000

100

製造間接費

3,600

200

小計

7,600

400

仕損費

400

△400

← 振替

合計

8,000

0

備考

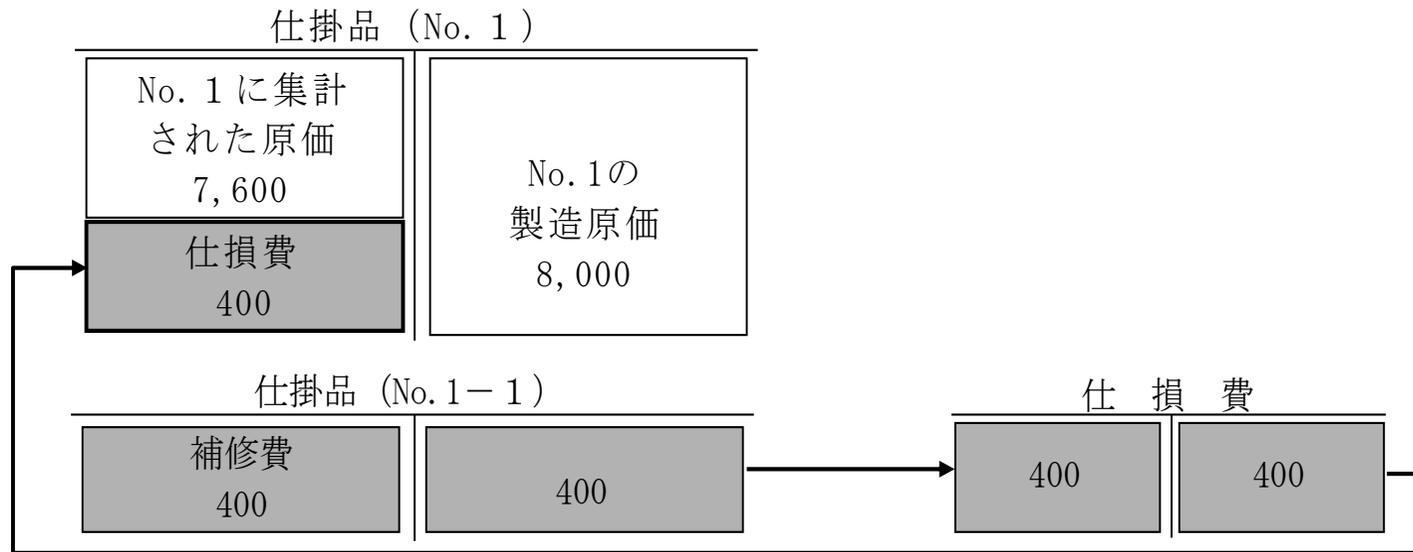
完成

No. 1～振替

【勘定記入】 下記のように金額を振替えるための「仕訳」を考えてください。

仕損費の処理— **直接経費** 処理—

→補修可能—補修指図書を発行する場合



(直接経費処理)

勘定記入 (仕訳帳) →直接経費処理

①補修指図書に集計する (No. 1-1)	仕 掛 品	400	材 料 賃 金 製 造 間 接 費	100 100 200
②仕損費へ振替え				
③仕損費を直接経費とする				